

厚生

八女市社会福祉協議会福祉生活支援室『ほっと館やめ』を視察

厚生常任委員会は、4月16日に市内2カ所の『ほっと館やめ』(多世代交流館・上陽)を視察しました。

ほっと館やめは、地域福祉の拠点として、ひきこもりや生活困窮者、不登校の児童生徒などへの相談支援を中心に、幅広い世代に対する相談対応や居場所づくりに取り組んでいます。

誰もが自由に立ち寄れるフリースペースを確保し、「ほっとする場所・ほっとな場所・ほっとかない場所」として、利用者が自然に社会とつながるきっかけを提供しています。特に印象深かったのは、フードバンク事業を通じた宅食支援「こども宅食」や、地域企業との連携による軽作業・内職を提供する取り組みです。封筒づくりや花火の箱詰めなどの作業により、利用者の達成感や自信を育む支援が実践されていました。

また、通学支援や公共交通を活用した同行支援、農作業などを通じた段階的な社会参加支援も行われ、本人のペースを尊重しながら丁寧に伴走する姿勢が徹底されていました。行政・民間・地域が連携した包括的な支援モデルは、今後の地域福祉の在り方を考える上で非常に示唆に富んだ視察となりました。



ほっと館やめでの視察の様子

視察を終えて

地域に寄り添う社会福祉協議会の姿勢と、関係機関・市民・企業が連携した支援の広がり深く感銘を受けました。本人の意思を尊重しながら段階的に社会参加を促す伴走支援の在り方は、誰一人取り残さない地域づくりの実践例として非常に意義深く、今後の政策形成や地域活動にも積極的に活かしていきたいと強く感じました。

加えて、支援の現場を丁寧に支える職員の存在がとても印象的でした。

坂本 治郎

建設経済

令和5年7月豪雨災害(上陽地区)の復旧状況を調査

建設経済常任委員会は、4月18日に上陽地区において、3カ所の災害現場の復旧状況を現地調査しました。

飯塚川・飯塚地区(河川・農地災害)

豪雨により土砂が流出し、河川内に堆積したことで水の流れが変わり、一部の農地が河川のような状態になりました。護岸復旧124.5m、農地復旧0.31haの工事が令和7年3月に完了しているとの説明を受けました。

市道西浦田線(曲田橋)(橋梁災害)

生活道路に架けられていた曲田橋が、豪雨により護岸とともに被災しました。仮設の橋を設置し、地域住民の通行を確保しながら工事が進められており、復旧工事については90%の進捗状況との説明を受けました。

市道田代・タシノ尾線・田代川(道路・河川災害)

河川護岸が豪雨により崩壊し、並行している市道も被災しました。今回は一部通行止めにより道路55m、河川36mの復旧工事を調査しました。地元関係者の協力を経て、約70%の進捗状況で、早期復旧に努めているとの説明を受けました。



市道田代・タシノ尾線・田代川
復旧工事の調査の様子

調査を終えて

今回の現地調査を通じて、各現場での災害復旧工事が着実に進捗している状況を確認することができました。現在、国の補助に関わる復旧工事については全て発注が完了しており、関係機関の尽力により早期復旧に向けた体制が整いつつあります。現場では、地域住民の皆様のご理解とご協力のもと、施工業者の努力に支えられ、復旧が着実に前進しています。関係各位に感謝と敬意を表し、一刻も早い復旧を願っております。

高山 正信